2021 年 10 月 10 日

『みんなのスポーツ』10 月号（№477）から学ぶ

林

今月は「地域スポーツの未来とスポーツ推進委員の選任・委嘱」の特集号です。以下に参考になる点、気になったことなど記載します。お時間のある時にお読みください。

１．巻頭言（ページ 11）埋もれた人材を探し出す

・なり手不足はどこの市町も抱える問題

・スポーツ推進委員が地域のイベントに関わっていることを地域に住民に伝える

・委員自らが楽しみながら、認知度と存在価値の向上に努め、活動に興味を持つ人が増え、より良い人材が地域から選任される。

２．理論編１（ページ 12）地域スポーツの危機とスポーツ推進委員の選任・委嘱

・推進委員の選任・委嘱、そして資質の向上に仕組みに問題はないでしょうかというくだりです。本市の場合選任・委嘱は立ち止まって考えてみる必要はあるように感じています。また、資質向上については 10 年程前に従来以上に、研修について検討を加え新任推進委員研修を始めました。また、理事・常任理事研修を理事更新年度などに始めており少しずつ意識が変わっているように感じています。

・新任の委員がいきなり連絡調整、社会的信望といっても無理があるように考えます。経験者とともに活動する（メンター制度？）のようなことで時間をかけて職務能力や地域で信頼を得られるような事を学区ごとで考えていけないでしょうか。

３．理論２（ページ１５）スポーツ推進委員の選任・委嘱における課題

・高松市の事例として「単位制」が紹介されています。その内容は総会や研修会、地域での活動、市や県の行事など 32.5 点/年の 80％以上出席をもとに報酬が支払われるようなことが記載されています。

単位制が導入され 10 年以上が経過し出席率の向上や意識の変化など成果はあったようです。

４．事例編　長野県（ページ２０）他地域とは異なる試みで人材確保と連携維持

・秋田県、福井県と長野県の事例が紹介されています。それぞれ工夫がされ興味深いです。中でも一番気にかかった長野県塩尻市の事例を記載します。委員をスポーツ推進委員と普及委員の２つにわけて活動をされていること、同じような事例は神奈川県内でも名称や役割なども工夫して取り組んでいる市町は見受けられます。個人的に少し調査を進めいきたいと思います。

＊本冊子は私たちの活動のヒントや答えがあるように思います。　以上